

量子コンピュータの現状と展望

IBMやD-Wave Systemsによる商用量子コンピュータ開発やGoogleによる量子超越性の発表により近年注目を集める量子コンピュータは急速な進化を遂げています。

本シンポジウムでは国内の量子コンピュータ研究に関して、超伝導・半導体・光・原子といった幅広い分野における取組をご紹介します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時:2021年3月16日(火)13:30～

場所:オンライン開催

招待講演リスト:

- | | |
|-----------------------|---|
| 蔡 兆申(東理大) | 「超伝導量子コンピュータの現状と展望」 |
| 田淵 豊(理研) | 「超伝導量子コンピュータの現状と展望
ー集積化とシステム化への課題ー」 |
| 川畑 史郎(産総研) | 「超伝導量子アニーリングマシン工学:設計
・製造・実装技術」 |
| Victor Bastidas (NTT) | 「Quantum Simulation with periodically-driven
superconducting quantum processors」 |
| 武田 俊太郎(東大) | 「光量子コンピュータの現状と展望」 |
| 大森 賢治(分子研) | 「アト秒精度の超高速量子シミュレータ開発と
量子コンピュータへの応用」 |
| 森 貴洋(産総研) | 「シリコン技術と量子コンピュータ」 |

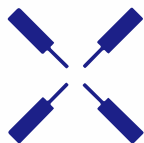
企画

大分類3 光・フォトニクス
大分類11 超伝導
量子情報工学研究会

世話人

齊藤 志郎(NTT), 根本 香絵(NII)
寺井 弘高(NICT), 山梨 裕希(横浜国大)

研究の パフォーマンス を高めましょう



Zurich
Instruments

任意波形ジェネレータ

→ 2.4 GSa/s、16ビット、750 MHz

→ 4、8 ~ のマルチチャンネル

→ < 50 ns のトリガ遅延

代表的アプリケーション

半導体試験、量子コンピュータ、フェーズドアレイ
レーダーデザイン、ライダー、分光、核磁気共鳴

インピーダンスアナライザ

→ 1 mHz ~ 5 MHz、1 mΩ ~ 1 TΩレンジ

→ 0.05%の基本精度

→ 補償アダプタと確信度インジケータ

代表的アプリケーション

High-Q 誘電体、容量型センサ、スーパー
キャパシタ、PV材料、コンポーネント特性評価

ロックインアンプ

→ 最大 600 MHz

→ オシロスコープ、FFT、周波数応答アナライザ、
パラメータスイーパー、イメージングツール

→ オプション:任意波形ジェネレータ、PID、
フェーズロックループ、パルスカウンタ、
パルスカウンタ、AF/FM変調

代表的アプリケーション

AFM、LVP、CARS、SRS、SNOM、グラフェン、
光PLL、テラヘルツ、ポンプ-プローブ、RFID、
MEMS、NEMS、ジャイロ、NDT、MRFM

ソフトウェア

すべての計測器には、豊富な機能、効率的なワーク
フロー、使いやすさを提供するZurich Instruments
の制御ソフトウェアであるLabOne®が装備されてい
ます。Webブラウザから計測器にアクセスするか、
計測器を、使用しているLabVIEW®, MATLAB®,
Python, C, 及び .NETプログラムに統合します。

www.optoscience.com

info@optoscience.com

Japan +81 3 3356 1064

www.zhinst.com/jp

info@zhinst.com

今すぐデモのリクエストを